

羽毛製品は冬の防寒着として定着していますが、
いまだに羽毛の膨らみがなくなった、羽毛が吹き出した、
シミになったなど様々なトラブルが生じています。
冬物衣料の時期を迎え、羽毛製品に特有の事故事例を紹介します。

監修／クリーニング総合研究所

クリーニング
処理方法
に注意

素材
特性
に注意

衣類の状態

クリーニングに出す前に比べ、
羽毛の膨らみがなくなったとの
申し出があったもの。外から触
ると、キルティングの間で膨ら
みがなくなっていたり、羽毛の
塊ができているのが確認できる。

み合って塊状になり、キルティ
ング内の羽毛が下の方に移動し
て片寄りができたもの。

事故の防止対策

羽毛の絡み合いは、水分と物
理的な作用が加わることによっ
て生じるため、水洗処理とタン
ブル乾燥を行う際には過剰な機
械力を加えないようにする。

原因

取扱い絵表示が水洗い禁止に
も関わらず、ウエットクリーニ
ングによる水洗処理とタンブル
乾燥を行ったことで、羽毛が絡

羽毛製品

ガチョウやアヒルなどの水鳥か

ら採取される羽毛には、ダウン(ワ
タ羽)とフェザー(羽根)の2種類
があり、通常は両方を混合して
使っている。一般にはダウンの混
用率の高いものほど高級とされ
ており、中わた素材として優れた
保温性、吸湿性と透湿性、圧縮
回復性などの機能を持つ。

品質の優れたダウンが十分に
詰め込まれている製品であれ
ば、羽毛製品に特有のふくらみ
の減少や中わたの片寄りなどは
生じにくい。

圧縮回復性

水鳥の胸の部分に生えているワ
タ羽のダウンは、タンポポの種子
のような形状で、中央に核(元羽
軸)を持ち、ここから放射状に
しなやかな羽枝が伸び、さらに
その左右に小羽枝が付いている。

羽毛の羽枝と小羽枝には、絡
み合わず反発しあう性質があ
り、羽毛のよじれや型崩れを防
止すると同時に、何回折り畳ん
でもすぐに元の形に戻ることが
可能。しかも、かさ高性も直ち
に回復し、羽枝の間に多量の空
気を含んで保温性も保たれる。

ダウン製品のクリーニング

羽毛自体はウエットクリーニ
ング、ドライクリーニングどち
らも可能だが、取扱い表示、使
用素材・生地加工、汚れの程度
などを総合的に判断して、処理
方法を決める必要がある。

- ・ウエットクリーニングは中性洗
剤を使用した押洗いが基本で、
脱水後は静止乾燥し、ダウン
をほぐすために温度を加えず
に、タンブルをかける
- ・ドライクリーニングは取扱い表
示や素材・生地加工などを考
慮し、使用する溶剤を選択す
る。できるだけ短時間で処理
を行い、タンブル乾燥をする



◀ダウン



◀フェザー



中わた羽毛が片寄ったダウンコート



キルティングの内側で、
羽毛が固まり、部分的に
膨らみが生じている



ダウンパックを開けてみると、
固まった羽毛が出てくる

- 品名…ダウンコート
- 素材…表地：ポリエステル100%
裏地：ポリエステル100%
中わた：ダウン90%、
フェザー10%
- 取扱い絵表示…
- 処理方法…ウエットクリーニング処理、
中性洗剤使用、
タンブル乾燥 60℃・60分